

しが国際協力親善大使レポート

やまこし えいたろう
山越 栄太郎さん

隊次：2018年度2次隊

職種：小学校教育

派遣国：カンボジア

自己紹介

滋賀県の皆さま、チョムリアップスオ（こんにちは）！ 守山市出身の山越栄太郎と申します。私は現在、青年海外協力隊、小学校教育隊員としてカンボジア南西部のプレアシハヌーク州に派遣されています。今年の3月に大学を卒業し、2018年度2次隊として10月にカンボジアに派遣されました。青年海外協力隊に参加しようと思ったきっかけは、小学校の担任の先生が海外での仕事の経験を授業で話してくれたことです。どこかでこの文章を読んでいただけていたら嬉しいです。

活動している国、地域の気候や文化の紹介

カンボジアと聞いて、皆さんはどんなことを思い浮かべますか？アンコールワット、地雷などでしょうか。私が今、協力隊活動を通して感じているカンボジアはまさに“発展途上国”です。首都プノンペンや観光地であるプレアシハヌークなどにいると、“物”が整っていることで、先進国にいるように感じられることがあります。しかし、実際に教育現場に足を踏み入れると日本では考えられない“教育”の姿があり、やはり発展途上国だなあと感じます。近年、様々な面で発展が著しいカンボジアですが、教育や医療など、まだまだ成長過程な一面があります。

活動や生活について

カンボジアの多くの小学校は、午前クラス(7時～11時)、午後クラス(13時～17時)に分かれていて、児童だけでなく先生も午前午後で完全に入れ替わります。1つの校舎を2つの学校が使っているような感じです。そして、1カ月ごとに午前と午後が交代します。また授業時間が少ないので、どうしても国語（読み書き）や社会、理科、算数の授業がメインになります。学校にもよりますが、私の勤めている小学校には音楽や図画工作などのいわゆる“情操教育”に分類される授業は体育しかありません。運動会、学芸会等のイベントもありません。体育の授業はといえば、ずっと体操をするだけです。というのも、カンボジアの悲しい歴史の影響もあり、今の先生たちのほとんどは子どもの時に体育の授業を受けたことがない人ばかりです。先生たちは、そもそも体育の授業がどんなものか分からないので授業のしようがありません。そんな中で、私はいま体育の授業実践や先生たちの指

導改善に取り組んでいます。

赴任してすぐ、初めて体育の授業を見学した時は衝撃を受けました。まず、開始時間から10分遅れて児童と先生が教室から出てきました。児童は制服、スカートのままです。この時点で残り時間は25分しかありません。ですが、これまでのカンボジア人のスローライフを見慣れていたのでここまでは想定内です。先生の指示で整列をして、体操が始まりました。「ちゃんと整理運動するんや。」と思っていたら、その体操が20分間続きました。そして最後に「運動は健康にいい！」と先生に続いて児童が復唱し、教室へ戻って行きました。私が一番違和感を覚えたことは、先生たちが体育の授業を“運動は健康にいい”から行っているということです。確かに健康の保持増進は体育の授業の大切な要素の一つです。しかし、小学校の体育授業には、もっと大切にすべきことがあるのではないかと感じました。競技で勝ったとき、記録が伸びたときの喜び、嬉しい気持ち。負けたときの悔しさ。勝負、記録のために努力した過程。チームで協力することの大切さ。体育の授業の中で児童が様々なことを感じることにこそ、大きな意味があるのではないかと考えています。算数のように決まった答えがあるわけではない「心の教育」、その必要性を先生たちと共有するのがとても難しく、モヤモヤした気持ちになることも多々あります。しかし、毎日「先生、今日は体育あるの？」と笑顔で話しかけてくる児童を見ると彼らのために頑張ろうという気持ちになります。体育教育分野での最終的な目標は、先生たちが自身で体育の授業を行えるようにすること、運動会を開催することの二点です。また今後は、環境教育にも力を入れていきたいと考えています。二年間、悔いのないよう活動したいと思います。







しが国際協力親善大使レポート

やまこし えいたろう
山越 栄太郎さん

隊次：2018年度2次隊

職種：小学校教育

派遣国：カンボジア

自己紹介

守山市出身。2018年10月より、小学校での体育授業の普及、実施を中心に活動しています。本寄稿は前回に続き2回目となります。任期は2020年10月まで。2年間の任期の内すでに1年2か月が過ぎ、自身の活動もより“最後”を意識したものとなりました。

活動している国、地域の気候や文化の紹介

熱帯モンスーン気候であるカンボジアは11月から4月が乾季、5月から10月までが雨季となります。私が活動しているプリアシハヌーク州は南西部の沿岸地域に位置し、年間降水量が国内で最も多い地域です。雨季にはバケツを返したような土砂降りの雨が毎日降り、道路は度々冠水してしまいます。現在は乾季の始まりで朝晩は涼しく、一年の中でも比較的過ごしやすい時期です。また乾季は結婚式のシーズンでもあるので、出費がかさむ時期でもあります。

活動や生活について

カンボジアでの活動も半分が過ぎました。2年目も引き続き、体育教育に関する活動を中心に行っています。小学校では9月に始まった長い休みが明け、11月に新年度を迎えました。休みの間には、国内の体育関係の活動をしている隊員で協力して、カンボジア人教員のための体育教育ワークショップを首都プノンペンで開催しました。首都までは非常に遠いにも関わらず私の配属校から3人の教員が参加してくれました。配属校ではワークショップに参加した3人をはじめ、数人の教員が体育に興味を持ち、また体育授業を行うことの価値を感じてくれているように思います。実際に数人の教員はすでに体育授業を一人で行っています。授業の内容や計画の作成など改善点はまだまだたくさんあります。しかし、1年前自分が赴任してきた頃と比べると本当に意識的に体育に取り組んでおり、時に別人のように感じるほどです。こういった教員たちが、より良い体育の授業を行うことができるようにサポートをすることが現在の主な活動です。具体的には授業計画を一緒に考えたり、教員の授業に対してフィードバックをしています。また、教員側からのアイデアや提案はできるだけ授業に取り入れるよう取り組んでいます。熱意のある人と共に仕事をするのは本当にやりがいがあり、楽しみながら活動ができています。また反対に自分が現地教員

から学ぶこともたくさんあります。自分の任期が終わる 10 月までにたくさん授業を行い、バリエーションを増やしてもらいつつ、一人になっても良い体育の授業ができるよう今後も支援していきます。

昨年度は体育の他に数回だけですが図画工作の授業も行うことができました。カンボジアの小学校には決められた図画工作の時間はありません。そういった状況の中で、“協力して作り上げる”ことを経験してほしいと考え、実施しました。子どもたちにとっては新しい体験でしたが、とても積極的に取り組んでくれました。体育の時間とは違った表情を見ることができ、図画工作を行って本当に良かったと思いました。

カンボジアでの生活も折り返しを過ぎた今、感じることは、自分の活動は同僚、友人をはじめたくさんのカンボジア人の支えの上で、成り立っているということです。残りの任期も感謝の気持ちを忘れず、支えてくれるカンボジア人のために精一杯、活動していきたいと思います。



現地教員が行った体育授業の様子。1年前では考えられませんでした。



体育授業の様子



図画工作の授業の様子



図画工作の授業で完成した作品